

令和7年度 研究テーマ

子どもが学びの主体となり 学びを深め、広げる授業

～「協働的な学び」と「個別最適な学び」を基盤として～



自ら課題を見つけ、解決する 深め 広げる

「すべての子どもは有能な学び手」（奈須2023）であり、教師はその学びの場を整備し、子どもたちが学びを推進し、深め、広げていくことをサポートします。



POINT 1 /

生活から生まれ生活にかえる

子どもが生活の中から生まれる課題に向き合い、学びを通して自分たちの生活をよりよく、豊かなものにすることを目指します。



POINT 2 /

「学びの本質」を意識

子どもが学びの主体となるように、「条件節」「行為節」を教師が意識します。学ぶ意義を子どもたち自身が感じながら「生きて働く知識・技能」の獲得を目指します。



POINT 3 /

授業スタイルの工夫

「協働的な学び」と「個別最適な学び」を学びの基盤とし、一体となった充実を図りながら「最適解」を追求する力をつけることを目指します。

テーマ設定の理由

本校での実践上の課題

- ・教師が主導する授業が多い。
- ・教師対子どもの個別学習に偏りがちである。
- ・「長さを比べよう」「かけ算をしよう」など、「行為節」のところを、学習の課題として子どもに提示する形の「教科学習」が多く、学びが「生きて働く知識・技能」として積み重なって行く条件に欠けている。

1年次

「子どもが学びの主体となり 学びを深め、広げる授業」へのアプローチ ～「協働的な学び」と「個別最適な学び」を基盤として～

知的障がい児の学習上の特性を意識

- ・主体的に活動に取り組む意欲を喚起する
- ・抽象的な内容よりも実際的な生活場面で

「生きて働く知識・技能」の蓄積を意識

→『「活性化された知識」は条件節(If)と行為節(Then)の対で貯蔵される。』奈須 2018

個別の指導計画
日々の見取り

学びのイメージ図

「実態確認表」の活用

「協働的な学び」と「個別最適な学び」を学びの基盤とし、一体となった充実

「すべての子どもは有能な学び手」(奈須2023)と捉え、教師はその学びの場を整備し、子どもたちが学びを推進し、深め、広げていくことをサポート

子どもたちがこれから生きていく社会

『チームを作り、仲間と話し合い、互恵的な関係を結びながら、共に仕事を仕上げていく。答えの用意されていない問題の「最適解を」共に追究していくことがより重視される社会を生きることになる』

『経済産業省「未来の教室」プロジェクトがめざしてきたもの』

浅野大介 農林水産省輸出国際局参事官 2024

鶴岡養護学校研究構想図

「最適解」を共に追究していく社会

Society 5.0

自立 夢 希望
well-being

地域社会 進路

新たな価値の創造

深化 広がり

学習の成立

教師のサポート

学びのイメージ図

スタイル

個別最適な学び

学習の個性化
課題解決に向けた個別
の習熟

協働的な学び

他者の視点 気づき
課題をつかむ

作業

教科
生単

日々の見取り
実態確認表
実態に合った条件節の設定
課題解決のための行為節の指導
指導の個性化
ICTの活用

興味関心

学ぼうとする根源的な思い

自立活動

日々の見取り
個別の指導計画
ICTの活用
教師のサポート

日常生活

学校・家庭

インフォーマルな
知識や経験

「学びの主体」となり
学びを深め、広げる子ども